

# 機関リポジトリをめぐる最近の動向

土屋俊  
(千葉大学)

# 文部科学省

- 科学技術・学術審議会
  - 学術情報基盤作業部会報告(2006年4月)
    - － コンピュータ・ネットワークWG
    - － 大学図書館等WG
      - 機関リポジリの推進を提言
      - NII/CSI事業に言及
    - － 学術情報発信WG
      - 機関リポジリによるセルフアーカイビングを推奨
      - ただし、学会との連携を強調

# 第3期科学技術基本計画

- 「基本的政策」の調査会報告で、
  - － 政府助成による研究成果の一定期間後のオープンアクセス化の提案
  - － 対応する動きはなし
- 同じく、大学図書館、国立国会図書館などによる恒久保存努力への要望
- 科研費（成果公開）との関係（第3期とは関係ないが）

# 米国関係

- NIH Public Access Policyの見直し
  - 2005年前半の実績が悪かったので、出版者を含むreview committeeによる検討
  - 義務化への提言
  - 歳出委員会における検討も続いている
- CURES法案審議(上院)
  - NIH関連の一部としてintroduce
- FFRAA法案審議(上院)
  - NIH以外も含む政府資金による研究の公開を要求

# 英国関係

- RCUKとして、大枠を示し、各Research Councilへ判断を任せる
  - 3つのRCでセルフ・アーカイブの推奨
- JISCの資金提供の成果が現れ始める
  - リポジトリ間連携の推進のための検討が進む
  - 権利管理に関する検討結果が発表(ここには、ハンドルの一元化も含まれている)
- Wellcome財団による、PubMed英国版へのアーカイブ

# 今の日本、たぶん

## • NIIのCSI事業

- 領域1 対象助成57大学
- 領域2による新規性のある研究・開発
- 「メタデータ・データベース」プロジェクトの終了と機関リポジトリからのメタデータ・ハベスティングへの一本化
- (現在の)NIIの意向として(土屋の解釈)、
  - 機関リポジトリの連携が日本における学術コンテンツインフラとなることを期待。すなわち、
    - 主要論文の搭載
    - 関連する論文(紀要等)の搭載
    - 研究の基礎となったデータそのものの搭載または利用可能性向上
  - 導入されたコンテンツとの連携強化
  - NIIの役割の模索(Genii, CiNii, ...)
- 大学側リーダーシップへの期待